

詩のような和歌山

杨 晨 （中国・交換留学生・浙江師範大学）

「和歌山です。あなたが留学するところは。」先生はそう教えてくれたのは日本へ来る前のことでした。「和歌山はいったいどんなところだろう」と思いつつ家に帰ってすぐネットで調べました。あの時少しびっくりしました。確かに、ネットで見る和歌山の写真はどれほどきれいなところか。山水が美しくて風景が素晴らしいです。しかも透き通った空は思った以上の青い色です。急に「一日も早く和歌山に行きたいなあ」という気持ちが心に溢れてきました。

3月の末、重い荷物を引き摺って、二人の友と一緒にこの「紀州」と呼ばれるところに来ました。あの時雨が降っていましたが、運転手さんの親切な挨拶を聞き、落ち込んだはずの気持ちは奇跡のように明るくなりました。異国の土地を踏んですぐ和歌山の美しさに惑わされました。こぬか雨は桜の花びらと一緒に舞い、清々しい空気の中に草の香りが溢れて、緑は毛布のように山を覆いました。綺麗で静かなところはわりとどこもいきいきしていて、まったく陶淵明の「桃源郷」でした。先生の車に乗って、賑やかな和歌山市は目に入りました。一番印象深いのはやはり和歌山城でした。雨に濡れてもずっしりそびえ立って、威厳を保ちました。確かにこの和歌山城の偉さは言葉にも表せないぐらい私の心を深々と打ちました。会館に着いた時、未来への不安や期待と一緒に生み出しました。

鳥達が翼を広げて空に飛んでいる朝、私はいつもバルコニーでお茶を飲みながら朝の景色を楽しみます。朝陽はとても柔らかいです。淡くて暖かい陽射しは枝の隙を透って、小さい星になり、あちこちに散りばめられています。猫はかわいい声で鳴いて、円な目であたりを見回します。そんな時、ひとりのおじいさんはいつも杖をついて、ニコニコしていて猫に餌をやっています。気持ちいい陽射し、貴族のような優雅な猫、元気そうなおじいさん、なんて美しい場面でしょう。誰が見ても微笑を浮かべます。これが私の和歌山に対しての第一印象だと言っても言い過ぎではありません。この小さい街は心温まる雰囲気にも包まれています。例えば和歌山のボランティアの方々、留学生達の面倒を見て、隅々まで気を配ってくれます。異国の日本で故郷の暖かさを感じて、初めの不安はあっという間に消え失せました。



ずっと「江南水郷」の浙江省で育てられた私は海なんか見たことがないです。だから和歌山の海がとても気に入りました。大袈裟か無知か何かと言っても、とにかく初めて海水の温度に触った時、すべての細胞が興奮のままに動き出しました。和歌山の海は信じられないほどきれいです。晴れている日は、海は純粋な薄青い空を映して、優しい波は海の果てまでカーテンみたいに揺れています。曇りの日は、水の色はまるで自分の世界に突っ込

んでいた孤独な旅人のような、憂鬱な灰色に変わります。誰かが言ってました、「意外性に出会った時、人は恋に落ちる。」そんな海の魅力があったからこそ、私自分も海の岩になりたくて、海水に溶け込みたいです。和歌山の海辺は恋人のデート聖地と言えます。特に夏、恋人達は浴衣を着て手をしっかりと繋いで、花のように咲いている花火を見ます。海風の中にチョコレートのような甘味がいっぱい満ちて、静かな月は厳かに白く、恥じらう無垢な花嫁のようにひかえめに輝いていて、黙って海の恋人を見守っています。そうです。これは和歌山の海、活力や人間の感情がいっぱいあって、愛の神ウエヌスみたい、気高く美しい、神秘的でロマンチックの香が溢れています。



和歌山の景色の美しさはもちろんみんな知っていました。しかし、ここの様々な祭りも観光客にアピールしたいことのひとつです。古い都として、和歌山には多くの祭りがあります。祭りという、日本人にとって重要な伝統文化です。祭りの日、人々は鮮やかな服を着て街に集まって、歌ったり踊ったりしてとても楽しそうです。外国人の私にとって、着物を着てみんなと一緒に心ゆくまで祭りの雰囲気を感じて、本当に特別な体験です。もし周りのビルがなければ、まるで時間を超えて昔の日本に戻りそうです。現代の日本に、祖先を記念するために、なんとも言えない歴史的なお祭りにすごくワクワクしていました。みんな積極的に祭りに参加して、知らず知らずのうちに人と人の壁が無くなって、人々はもっと親しくなりました。だから和歌山の人はみんな生活に情熱を燃やします。



半年は瞬く間に過ぎました。ほぼ六ヶ月の間に、私にとって和歌山はもう「第二の家」になりました。韓国や他のところから和歌山に帰るたびに、いつも「家に戻った、よかった」という感じがします。ここの人達の親切な微笑、雨で霞んでいる山の景色、木の影に寝ている猫、ロマンチックな海、賑やかな祭り等すべて好きになってしまいました。私だけでなく、留学生みんなも和歌山から離れたくはないです。もし帰国する日になったら、この詩のような和歌山を文字で書いて心に入れて、両親と友達と分かち合います。本当に、和歌山の生活は私にとって一生忘れられなくてもっとも美しい思い出になります。